



## 収穫の秋 〜たわわに実ったミネアサヒの稲穂〜

稲穂が黄金色に波打ち、ザワザワと音を立てる9月。早生（わせ）の品種である「ミネアサヒ」の生産が盛んな額田地域では、一足早く米の収穫の最盛期を迎えています。ミネアサヒは、昭和55年に県が開発した品種で、昼と夜の寒暖差のある山間部での生産に適しています。額田地域では、水稲の作付面積約180分のほとんどでミネアサヒが生産されています。

明見町でミネアサヒを生産する河合延彦さん（77歳）はこう語ります。

「ミネアサヒは、植え付けや刈り入れの時期が早い品種です。出来た米は、やや小粒ですが、丸々とし、光沢があります。炊飯した米はうまみと粘りに優れ、冷めてもおいしく食べることができま

す」。ミネアサヒの苗の植え付けは、5月初旬から始まります。他の品種の米と同じ

ように、大切なのは水田の水量調節です。「水温が上がると米が白く濁ってしまうので、水を深めに入れておくように注意が必要」と言います。河合さんは



収穫の1週間前まで毎日15分の田んぼを回り、水量を管理します。また、ミネアサヒは病害虫に弱いため、生産には細やかな管理が必要です。害虫の温床となるあぜの草をこまめに刈ることは欠かせません。「これから改良しようとしているのは土です。土を良くして、病気に強い健康な稲が出来れば、農薬も少なくて済みます。健康な稲から出来る健康な米作り。それを心掛けていきます」とも語っていました。さらに良い米作りをするための努力を惜しみません。

今年には病害虫の被害が少なく豊作と言います。河合さんは「水と空気がきれいなところで育った米が、おいしくないわけがない」と胸を張ります。

ミネアサヒは、ふれあいドーム岡崎とおかざき農遊館で量り売りしています。食欲の秋にふっくらおいしいミネアサヒの新米をぜひご賞味ください。

農務課 公23◆6199

## 「よくわかま病気の話」 単なる物忘れと 認知症の違いは？

認知症とは「脳や身体の病気が原因で記憶・判断力の障がいがある」といいますが、普通の社会生活を送ることが困難な状態が続くもの」を言います。現在、国内には200万人以上の認知症のかたがいます。さらに10年後には、300万人にのぼると言われています。

老化による単なる物忘れと認知症は、物忘れの程度の差が明らかに違いがあります。認知症のかたはいつも同じことばかり繰り返して言ったり、いつも何かが無いと言ったり、探し物をしていたり、食べたものを忘れるばかりではなく食べたことと自分を忘れてしまいます。老化による単なる物忘れは、ここまでの状態ではありません。たまに同じことを繰り返したり、時々探し物をしていたり、食べたことと自分は覚えているが何を食べたかを忘れてしまったりする程度です。

認知症を起こす脳の病気として多いものは、アルツハイマー型認

知症と脳血管性認知症で、両者の合併もよく見られます。その他にはレビー小体型認知症や前頭・側頭葉型認知症などがあります。また、脳腫瘍やビタミン欠乏が認知症の原因となることもあります。

認知症のタイプや原因の違いによって対処法がかなり異なりますが、早期にきちんとした診断・治療を受ければ、認知症の進行を抑制することが出来ます。また、脳腫瘍やビタミン欠乏などが原因の時、治ることもあります。「最近物忘れの程度が強くなったな」と本人または家族のかたが気付いたら、早めにかかりつけ医に相談しましょう。

岡崎市民病院 脳神経内科

部長 馬淵 直紀

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。